

まちづくり交付金 事後評価シート
とおかまち地区

平成21年12月

新潟県十日町市

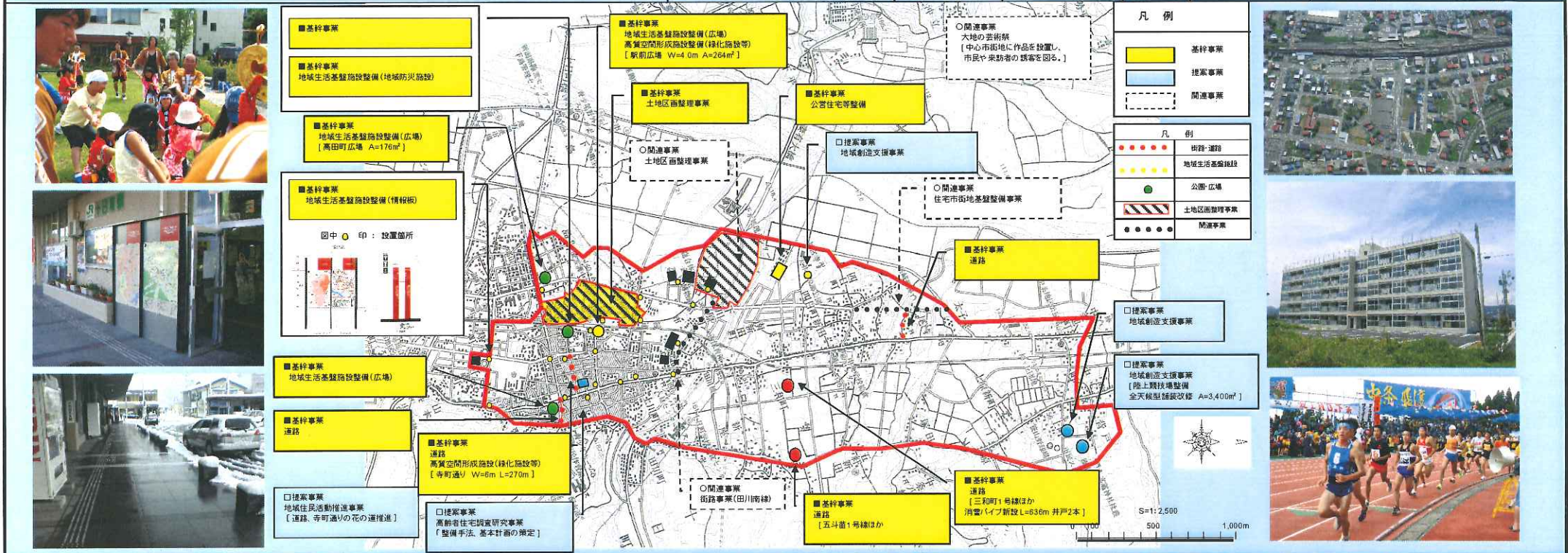
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	十日町市	地区名	とおかまち地区			面積	493ha				
交付期間	平成17年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	2,292百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業	市道改良事業(1路線)、公園(1箇所)、地域生活基盤施設(歩行者用市街地案内板、広場整備)、高質空間形成施設(石畳舗装、照明施設、ロードヒーティング、障がい者誘導施設)、土地区画整理事業(十日町駅西地区)、公営住宅等整備(新築1棟)											
	提案事業	事業活用調査(高齢者集合住宅調査研究)、まちづくり活動推進事業(市民ワークショップ)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	市道改良事業(2路線)	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業	基幹事業	市道改良事業(1路線)、市道消雪パイプ新設事業(2路線) 地域生活基盤施設(広場2箇所、地域災害倉庫1棟)	スポーツ・文化地区へのアクセス道路整備。 中心市街地におけるイベントスペースの確保。				影響は軽微					
交付期間の変更	当初	平成17年度～21年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	中心市街地区域内人口減少率の抑制	%	-1.23	H15	-0.80	H21	-1.13	-0.87	△	あり なし	中越大地震の影響等による急激な人口減少の中、区画整理事業等が中心市街地における人口減少率の抑制に寄与した。	H22年4月頃
	指標2	お祭りの入り込み客数	人	188,000	H15	200,000	H21	268,400	276,000	○	あり なし	来訪者の快適性、利便性を高めたことやPR活動の促進等がお祭りの入り込み客数増につながった。	H22年4月頃
	指標3	中心市街地買物利用割合	%	-3.09	H13	-1.50	H21	/	-0.73	○	あり なし	歩行者空間が整備され中心市街地に回遊性を持たせることができた。	
	指標4	歩行者数	人	634	H16	680	H21	/	865	○	あり なし	メインとなる2路線の街路事業が中止となったものの駅周辺整備により大幅な歩行者の増加が確認された。	
指標5	陸上競技場利用者数	人	27,861	H15	30,000	H21	31,382	30,525	○	あり なし	公認競技場となったことで大規模な競技会の開催が行われ施設利用者数が増加した。	H22年4月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度*	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	十日町駅西地区の人口	人	738	H16	/	753	764	/	あり なし	人口の減少化が進む中、土地区画整理事業を実施している十日町駅西地区においては事業効果による人口増加が確認された。	-	
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	あり なし	-	-	
その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	あり なし	-	-		
4)定性的な効果発現状況	<p>・陸上競技場で開催された「北陸実業団陸上競技選手権大会」では、参加選手団が中心市街地の商店街を利用する姿が見られた。中心市街地からは離れている「スポーツ・文化地区」の整備が中心市街地の賑わい再生に寄与し、中心市街地の活性化にもつながった。</p> <p>・中心市街地に点在する「雪まつり」の雪像や「大地の芸術祭」参加作品を巡る来訪者が、街の角々に設置した歩行者誘導案内看板を見知らぬ土地での「道しるべ」として活用されていた。</p> <p>・中心市街地に整備された泉町公園では、人々が集える和やか空間が整備されたと共に、災害時の防災体制として新たに町内主体による自主防災会が組織され、公園が地元町内の1次集合場所として活用されることになった。</p> <p>・昨年、合併後初めて全市民を対象にした市民大運動会が、本事業で整備された陸上競技場において開催された。これを期に、同陸上競技場において4年に1回の継続開催が決定された。</p>												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	本市統計書等によるモニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ●				
	住民参加プロセス	「十日町TMO(タウンマネジメント機関)」との活動連携 中心市街地の公園、道路に関する市民ワークショップの開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ●				
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

とくまち地区(新潟十日町市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
テーマ:だれもが安心して活動できるにぎわいあふれる都市ゾーン	中心市街地区域内人口減少率の抑制	単位: % -1.23 H15	-0.80 H21	-0.87 H21
	お祭りの入り込み客数	単位: 人 188,000 H15	200,000 H21	276,000 H21
	中心市街地買物利用割合	単位: % -3.09 H13	-1.50 H21	-0.73 H21
	歩行者数	単位: 人 634 H16	680 H21	865 H21
	陸上競技場利用者数	単位: 人 27,861 H15	30,000 H21	30,525 H21



まちの課題の変化

- 中心市街地における人口減少率の抑制は目標値を上回ることが出来なかったが中心市街地の人口減少率、買物利用割合とも抑制傾向を示すに至った。また、年々、お祭り入り込み客数も増加している。
- 中心市街地では、道路との連続性を持たせた公園整備や冬期間も快適な歩行者空間となった駅前広場整備等により、歩行者の回遊性を向上することが出来た。さらに、歩行者誘導案内看板により、まちに不案内な来訪者でも「まち歩き」が出来る市街地の形成に貢献した。
- 中条地区では、陸上競技場が公認競技場となり各種大会が開催されるとともに、隣接する文化財(笹山遺跡)を活用した「じょうもん市」も年々大規模になってきており、これらのスポーツ、文化関係来訪者が増加している。
- 事業を進める中で、中心市街地の2路線(川治昭和町線、稲荷町線)の街路整備の必要性和、新たな住民ニーズ(駐車場確保、放置空き店舗に係るアスベスト飛散や倒壊防止の問題、公園整備)が浮かび上がってきた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 中心市街地における交通のネックとなっている2路線の街路整備に向け、沿線住民の合意形成を図る取り組みと局部的な踏切改良の実施が急務となっている。
- 中心市街地において空き店舗や空き地の広がりが目立つ中、地元住民からは「駐車場の確保」、「放置空き店舗問題(アスベストの飛散や建物倒壊)の解決」、「中心部における公園整備」といった要望が高まっており、これらのニーズに具体的にどう取り組み、どう事業化するかの検討が必要である。
- 「スポーツ、文化地区」の整備に伴い、これらの施設、文化財を活用した来訪者の増加に向けたPR活動等の促進を図り、増加した交流人口をどうやって中心市街地の活性化に結びつけるかの検討を図る必要がある。
- 街なか居住を高めるため、中心市街地に点在する空き店舗等を利用した低層公営住宅や集合住宅の建築といった具体的施策の検討を図る必要がある。